

白川郷での養蚕

記録によると、18世紀中頃までには飛騨地方（現在の岐阜県北部）全域の庄川沿いの村々は養蚕で知られるようになっていました。こうした記録には白川郷が頻繁に登場しており、その時期まで生糸の一大産地として名を馳せるようになっていたことがうかがえます。その名が知られていたのは白川郷産の絹の品質の高さによるもので、飛騨や日本海沿岸の有力な加賀藩（現在の富山県、石川県）において需要の高い商品となっていました。